

## 名号堂

山梨県大月市真木間明野

### 名号石

福正寺に伝わる「毒蛇濟度」の名号石。善福寺のものより細長い形状をしており、水にぬらすことで、微かではあるが墨で書かれた名号らしき文字が浮き上がるのを確認することが出来る。

笹子川の辺、吉窪（葦窪）に住んでいた佐久太郎は、説法をしている親鸞聖人を訪ね、六字名号を求めたが、多くの民衆のため近づくことが出来なかった。そのため、白布3尺を人手渡しに聖人のもとへ捧げたところ忽ちに六字名号を著したという。このことから笹子（笹子）川際を手渡しにて送り渡したので、「川越の名号」と名づけられた。また、「太布の名号」とも呼ばれ、世の知るところとなる。

その後、寛正6年（1465）に福正寺の本堂が焼失した際、太布の名号が火中より出て北方の山谷に飛び去っていった。名号が落ちた場所は夜になると光を放ち辺りの野原を照らしたという。その所以からその地は「間明野」と呼ばれ、名号堂が建立され今に残っている。

間明野は、福正寺よりさらに山間部へ2キロほど行ったところにある。そこには「名号堂」が建てられており、毎年3月28日には「太布の名号」をお堂に安置し、福正寺を導師に、先記の善福寺、正念寺（本願寺派）の3ヶ寺で法要を勤めている。昔は、「お名号さん」と言って、縁日が出るほどの賑わいをみせていたようである。現在、太布の名号（伝・親鸞御筆）



名号堂

は名号堂の近くに住む福正寺のご門徒の方が、お堂とともに管理している。福正寺にも布に書かれた六字名号（伝・親鸞御筆）が所蔵されている。